緊迫する世界

川上高司

★★2

「5G」で分断される世界

米中貿易摩擦が長期化して、「世界経済の減速」の大きな要因となるという懸念が11日、ワシントンで開催されたG20（20カ国・地域）財務相・中央銀行総裁会議でも示された。すべての鍵は米国にある。

米国は、中国へ貿易戦争を、昨年10月4日のマイク・ペンス副大統領のスピーチで宣戦布告した。それ以降、ワシントンの中国たたきは激化している。対中強硬路線の中核に米議会がいて、右派と左派双方から幅広い支持を得ている。

米中新冷戦の状況は、「レベル1＝貿易・関税戦争」「レベル2＝技術戦争」「レベル3＝軍事衝突」の段階に分けて考えれば、現在はレベル2からレベル3へと入ろうとしている状況にある。

レベル1の貿易・関税戦争では、ほぼ全面的に中国側が米国側の要求を甘受し、約束履行の検証機関を設けることで一段落しようとしている。4月には習近平国家主席が米国を公式訪問し、手打ちをする予定である。

しかし、それはつかの間のこととなろう。

本丸は、レベル2の技術戦争にあり、その中心は高速大容量の第5世代（5G）移動通信方式ネットワークをめぐる覇権争いである。「5G」は単なる通信施設ではなく、工場の自動化や自動運転、遠隔医療など、「IoT（モノのインターネット）時代」の社会基盤となる。つまり、次世代産業の主導権を握る「5G」を制するものが、世界を制するのだ。

米国の危機感は、「5G」で中国の後塵（こうじん）を拝することだが、それ以上に、中国通信機器大手「華為技術（ファーウェイ）」が、中国人民解放軍に近いことも大きい。米国は、ファーウェイに対し、諜報やサイバー攻撃、軍事技術開発などで疑念を持っており、「米国の国家安全保障上の重大な脅威」と受け止めている。

米国は、最高の機密情報を共有する「ファイブ・アイズ」（米国、英国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド）や、日本などの同盟国・友好国に対し、ファーウェイによる5Gネットワーク構築の阻止を強く要請している。

結果的に、世界は「米国中心の5Gシステム」と、「中国中心の5Gシステム」の2つの陣営に分かれることとなろう。

今後のシナリオは3つある。

第1は、軍拡競争や代理戦争も含む深刻な対立だ。ドナルド・トランプ米大統領が、中国とディール（取引）を試みても周囲が許さないため、これは大いにあり得る。

第2は、抑制・管理された対立だ。米中間でディール可能となれば両国間の紛争は回避される。

第3は、トランプ氏というファクター（要素）で、理解不能な結果となるものである。

現状は、一歩間違えば「世界恐慌」に陥りかねないばかりでなく、米中の小競り合いから、一気に「米中の軍事的衝突」にまでエスカレーションしかねない。特に、日本に対する影響は甚大であることは言うまでもない。

トランプ氏と習主席率いる米中両国は、「5G」をめぐって覇権争いを展開している（ともにAP）

かわかみ・たかし　1955年、熊本県生まれ。拓殖大学海外事情研究所長。大阪大学博士（国際公共政策）。フレッチャースクール外交政策研究所研究員、世界平和研究所研究員、防衛庁防衛研究所主任研究官、北陸大学法学部教授などを経て現職。著書に『「新しい戦争」とは何か』（ミネルヴァ書房）、『トランプ後の世界秩序』（東洋経済新報社）など。